

薄い本

第1章 薄い本を作るにあたって

1.1 薄い本の季節

もうすぐ年末である。年末といえば、薄い本が出回る季節である。私も死ぬまでに一度は現地に行ってみたいものだ。名古屋コミティアには行ったことがあるのだが。

1.2 薄い本の歴史

今日の講座の終わりに雑談として「近いうちに薄い本を作りたい」と生徒に話すと、変な顔をされた。むう。彼らにとっては同人誌というとアレなものが思い浮かぶのであろう。勤務校は男子校だし。しかし『白樺』とか『我楽多文庫』とか19世紀にあったというアレだってアレじゃないかと私は思うのだ。もっとも、それらの本が薄かったかどうかは私は知らない。マンガの同人誌は印刷が高価だったことから歴史は浅いが、それでもコミケは50年近く前からあったらしい。私は17歳なのでよくわからないが。

1.3 厚い本との違い

- 薄い本は薄い
- 厚い本は厚い

たぶんページ単価は**薄い本の方が高い**。昔は厚い本というと電話帳だったのだが、今の電話帳は薄くなってしまっている。広辞苑はまだ通じるだろう。そういう意味では厚い本として現存する有名なものというゼクシィなのだが、あれは厚いことに価値がちゃんとある。きっと薄いゼクシィを作っても売れないだろう。コンピュータ関係でも昔は厚い雑誌がたくさんあったが、あれも多くのページが広告であった。